

20年を経た今、著者たちが妥当だと確信するところを残したまま、必要な箇所に加筆修正を施して改版してはどうか、とジャパンタイムズ社からお誘いを受け、生まれたのが本書です。改訂作業において、構成、修正箇所、イラストの全面的な描き直しなど、全般にわたり、同社出版局の伊藤秀樹氏にお世話になりました。ここに感謝の意を表します。

2010年7月

著者

目次

はじめに 3

理論編①

暗記に頼らない単語の学習とは？ 9

単語学習には丸暗記しかないのか／語彙能力＝体系化された知識／単語は世界の切り取りの産物／英単語の日本語との関係／単語の意味は1つではない

理論編②

動詞の持ち味をつかむ 19

1. 基本動詞のコアとは？ 20

基本動詞の意味の広がり／意味のとらえ方＝コアを把握する／形が違えば意味も違う／形が同じなら共通の意味がある／「コア」とは？／コアで紡ぐ基本動詞の意味

2. コア・イメージのとらえ方 32

コアを見つけるには／モノと動きに注目／メタファー（隠喩）の動きにも注意して／句動詞の理解にもコアを応用／意味の広がりとは焦点／まとめ

実践編①

基本動詞のコアを分析する 49

1. BE と HAVE 50

▶ BE 50

BE 動詞のコア／本動詞の場合／助動詞の場合／そのほかの用法

▶ HAVE	54
HAVE と BE との比較／助動詞としての HAVE と BE／HAVE + a + V [動詞] の意味／TAKE + a + V [動詞] との違い	

2. TAKE/GIVE/BRING

—HAVE 空間を軸にした移動の動詞—	62
---------------------------	----

▶ TAKE	62
---------------------	----

▶ GIVE	66
GIVE Y to Z か GIVE Z Y か／構文の違いによる意味への影響 ／ほかの同意語との違い	

▶ BRING	72
BRING と CARRY の違い／BRING と TAKE の関係	

3. HOLD と KEEP—保持の動詞—

▶ HOLD	79
HOLD の意味	

▶ KEEP	82
---------------------	----

4. 知覚・感覚動詞

焦点化についておさらい／知覚・感覚動詞の3つの側面

▶ SMELL	87
----------------------	----

▶ TASTE	89
----------------------	----

▶ SEE と LOOK	90
SEE の場合／LOOK の場合	

▶ HEAR と LISTEN	96
------------------------------	----

▶ FEEL と TOUCH	98
-----------------------------	----

5. GET と MAKE

▶ GET	102
GET と TAKE の違い／GET と RECEIVE の違い	

▶ MAKE	106
MAKE 構文のなかの「小さな節」という考え方	

6. 使役動詞

▶ 使役の MAKE	112
-------------------------	-----

▶ 使役の LET	113
使役の MAKE と LET の違い	

▶ 使役の HAVE	116
-------------------------	-----

▶ 使役の GET	117
使役の GET/MAKE/HAVE/LET の比較	

7. 行為動詞の元締め DO

DO の他動詞用法と自動詞用法／疑問文や否定文の DO

実践編②

句動詞を作る前置詞のコア

前置詞と副詞

1. 基本的な前置詞

▶ IN の持ち味とその応用	130
典型的な入れ物	

▶ ON の持ち味とその応用	137
〈途中・依存〉を表す on	

▶ AT の持ち味とその応用	145
-----------------------------	-----

2. 紛らわしい前置詞	151
▶ OVER と ABOVE	151
▶ OFF と OF	153
▶ TO と FOR	157

実践編③

イメージでつかむ句動詞 161

句動詞で広がる英語表現／微妙なニュアンスをつかみとろう／副詞を軸にした句動詞の学習法／句動詞をとらえるための基本動詞のイメージ

▶ UP	169
▶ DOWN	174
▶ IN	178
▶ OUT	182
▶ OFF	186
▶ ON	191
▶ BACK	195

まとめ

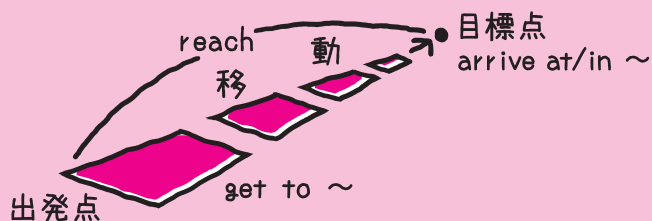
カバーデザイン・本文レイアウト
イラストレーション
編集協力
DTP 組み版

清水裕久 (Pesco Paint)
島津 敦 (Pesco Paint)
須藤晶子
朝日メディアインターナショナル

理論編①

暗記に頼らない単語の学習とは？

ほとんどの英単語には複数の日本語訳がありますが、それらをばらばらに覚えるのでは単語を「使いきる」ことはできません。この章では単語を効果的に学習し、積極的な英語の使い手になるための考え方を解説していきます。



分のところに取り入れた／受け取った〉ということです。同じような例に、Take it easy. (気楽にやれよ) があります。これは、〈it (そのこと) を気楽に受け止めよ〉ということですし、Don't take it personally. は〈(いま言ったことを) 個人的にあてつけたものと受け取らないでくれ〉ということです。

I can't take it anymore. は〈もうこれ以上、it (いやなことや困難など) を、自分のところに取り入れられない／引き受けられない〉ということから「もうこれ以上がまんできないよ」となるわけです。

このように take のコアは、基本的には、読者のみなさんが理解されていたことと同じだと思えます。しかしここで大切なのは、その理解が、実は、take の行動を統制する原理として働いている、ということです。つまり、take の (ほとんど) すべての用例の背後には〈自分のところ (テリトリー内) に取り入れる／取り込む〉というコア・イメージが働いているということです。

GIVE

take の反対に give があります。give は、

自分のところ (テリトリー) からあるものを外に出す

というコア・イメージをもちます。take と give の関係は、ちょうど HAVE 空間を軸に反対になります [図 15]。

John gave money to the poor. (ジョンは貧しい人々に金を施した) という文は、John が金を〈自己の所有テリトリー内から外に出した〉ということで、出した金の行き先は、方向を表す to によって指定

[図 15]



されます。この場合は the poor (貧しい人々)、となります。

■ GIVE Y to Z か GIVE Z Y か

give のいろいろな使い方を見ていく前に give の文法を少し整理しておきましょう。give を構文的に見ると、みなさんご承知のように、2通りの言い方があります。

- John **gave** flowers **to** Mary. 〈give Y to Z〉
- John **gave** Mary flowers. 〈give Z Y〉

という2つの形です (Yは give の対象となるものでZはその受け手です)。

さて、ここでひとつテストです。空欄に適切なことばを補って次の文を完成させてください。